むすびプラス

みんなの組合員活動 Vol.155

ともに育ち　学びあう活動―実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を"むすび"ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

2021年度いなぎめぐみの里山

委員会交流デーを開催

パルシステム東京が掲げる「農と緑の創生」をキーワードに、地域社会との交流も含め、組合員が参加できる「場」として2004年に開設された「いなぎめぐみの里山」。6月29日に開催された、エリアを越えた委員同士の交流を図る 委員会交流デーの様子をお伝えします。

前日の雨の影響で

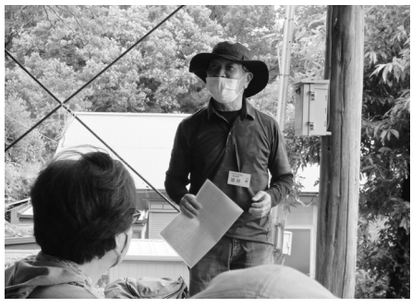
里山の保全のしくみを知り、野菜の種まきや植え付けから収穫、散策や里山の素材を利用したリースづくりなど、様々な企画を通して自然と触れ合う機会を提供している「いなぎめぐみの里山」での委員会交流デーに５委員会14名が参加しました。前日から当日の朝まで降った雨の影響で、当初の予定だった里山の裏手にあたる南山地区の散策や援農体験は中止に。稲城駅前から、足場の悪い山道を避け、舗装された道を経由して里山を目指しました。

里山について考える

里山の休憩スペースに集合して交流会。エリアも違う委員同士の交流の機会はなかなかないこともあり、参加委員会の自己紹介として、この１年の活動状況、今後の企画予定などを報告しました。委員それぞれからは、おすすめのパルシステム商品を伝えあいました。

次は、パルシステム東京から業務委託を受け、里山の管理運営を担う「NPO法人　いなぎ里山グリーンワーク」の酒井代表から、いなぎめぐみの里山の成り立ちや、なぜ里山を再生・保全するのか、今後取り組んでいきたいことやスタッフの高齢化に伴う課題などを聞きました。「新宿から電車で30分という多摩丘陵に広がる里山は、貴重な資源です。日々手をかけ守っていかなければ、里山の維持は難しく、毎年宅地造成の波が迫ってきています」という話に、参加者は真剣に耳を傾けていました。

その後の畑での農作業支援も、雨上がりのぬかるんだ状態で中止に。事前にスタッフが収穫したじゃがいもや玉ねぎ、にんにくなどを購入して解散となりました。「空気が違うし、木や草の香りがしてうれしい」「今度は子どもと一緒に来てこの自然を感じさせたい」「援農ができず残念。これからも里山を継続できるよう委員会として何ができるか考えたい」の声が聞かれました。



里山は人が手を入れて自然を維持しています。畑も手を入れなければすぐに草が生え荒れていくと話す酒井代表

どの委員会もコロナ禍で定例会をオンラインで行ったとのこと。緑豊かな里山の自然に癒されました

じゃがいもは４種類。それぞれの特徴を聞いて購入。「今度はぜひ土に触れたい」の声が聞かれました

配送センターからオンライン配信する委員会企画が始まりました

組合員とつながるためのしくみとして、web会議アプリを利用し配送センターを中継して委員会企画を開催する取り組みが始まりました。今回は、緊急事態宣言の中、足立センターと多摩センターで開催された、2委員会の企画開催の様子をお知らせします。

私たちの食卓とアニマルウェルフェア

7月20日
あだちエコ委員会

「委員会でもオンラインを使った企画を早くやりたかったです」と話すあだちエコ委員会の委員長は、さまざまな市民活動で何度もオンラインイベントを主催しています。講師の岡田さん（NPO法人アニマルライツセンター代表理事）はもちろん、参加者もオンライン経験者。次々に入室しスムーズに始まりました。

講師が流した動画からスタート。参加者たちは、動画の鑑賞を通じて、自宅にいながら畜産現場の劣悪な現実を目にしました。さらに講師が「日本の一部の畜産はいまだに効率を優先しているところがあります」「アジアや中南米を含めたほとんどの国が苦痛を与えない畜産に移行しつつあります」などの解説を加え、講演は終わりました。

その後、参加者も発言。「ショッキングな映像でしたが現実を知ることができました」「私たちがアニマルウェルフェアに配慮して飼育・生産した肉やたまごを選ぶことで、これからの畜産を変えていきましょう」などの声があがりました。参加者全員、大きくうなずき、画面ごしに思いを共有。みんな、離れていてもつながっていることを実感しました。初めてのオンライン企画でしたが、改善点も見え、オンライン企画の可能性は広がりそうです。

会議室には、委員長と足立センター活動長、組織スタッフの3人だけ。講師や委員、組合員は、それぞれの自宅で参加しました

「日本では認知度の低いアニマルウェルフェアですが、飼育環境を改善させたいと模索する生産者も少しずつ増えています」と話す講師の岡田さん

プラスチック問題学習会

8月10日
多摩商品委員会

昨年から計画があった、プラスチック問題をみんなで考える学習会をオンラインで開催。定例会などオンラインを利用していましたが、企画開催は初めての試みです。講師は環境推進課職員。センター会議室と新宿本部、参加者をつなぎます。自宅から気軽に参加できるため親子の参加も多く、和やかに始まりました。

環境推進課の職員が、身の回りにあるマイクロプラスチックや、パルシステムがプラスチックを削減した容器・包材を、画面を通じて見ながら解説

はじめに、30分ほどのDVD「プラスチックごみ日本のリサイクル幻想」を鑑賞。「日本ではごみは分別収集され、資源はリサイクルされている」というリサイクル先進国のイメージとは裏腹な、プラスチックごみの処理問題や海洋プラスチック問題などの現状を学習しました。また、パルシステムのプラスチック削減について、包材を小さくしたり、容器を薄くするなどの取り組みを聞き、プラスチックと上手に付き合うために、私たちにできることを考えました。質疑の時間には、大人からも子どもからも様々な質問があがり、削減への意欲と関心の高さがうかがえました。

委員からは、初めてのオンライン開催について「参加者の入室確認名簿の作り方や、質疑の手順など、リアル参加とは違う工夫の確認ができてよかった」「たくさんの組合員に、プラスチック問題がとても身近な問題だということや、パルシステムの具体的な削減の取り組みを伝えられたと思う」との感想がありました。

多摩センター初のオンライン企画。「事前のコミュニケーションがしっかりとれていたので、スムーズに進行できました」と活動長